授業科目	チーム関係論	担当教員	和田　英峰		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	15 時間
授業目的	リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性を学び、関連他職種に対する理解を深める。				
到達目標	リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性を理解する。				
テキスト・参考図書等	特に指定しません				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	提出課題の内容により評価
	レポート	100	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	良質のリハビリテーションサービスの提供には、関係職種との連携が不可欠であり、そのためには各職種の役割を理解する必要がある。関連職種の講義内容はレポートにまとめておくこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	チームアプローチ	リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性を知る
	2	職種間の相互理解	理学療法士と作業療法士の相互理解が連携の基礎であることを知る
	3	医療ソーシャルワーカーとは	医療ソーシャルワーカーの仕事、チームワーク
	4	理学療法士とは	理学療法士の仕事、チームワーク
	5	作業療法士とは	作業療法士の仕事、チームワーク
	6	言語聴覚士とは	言語聴覚士の仕事、チームワーク
	7	看護師とは	看護師の仕事、チームワーク
	8	チーム連携のありかた	グループ討議とまとめを通じて連携の重要性への理解を深める

授業科目	チーム関係論	担当教員 実務経験	綾部潤和 有：■　　無：□	道内病院にて医療ソーシャルワーカーとして勤務
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	基礎作業学実習Ⅲ	担当教員	池田　保		
対象年次・学期	3 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	45 時間
授業目的	限定的作業分析ができる。作業の治療的応用について考察し具体的な手段を列挙することができる。教授法について理解を深めることができる。				
到達目標	限定的作業分析を通じて、作業の特性を捉え方について列挙できる。				
テキスト・参考図書等	吉川ひろみ：COPM・AMPS スターティングガイド　三輪書店				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	40	COPM・AMPS は期末テストと提出課題で評価する。 合同レクは、提出課題にて評価する。 折り紙、マクラメ等、木工は、限定的作業分析表などの提出課題と作品点で評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	60	
その他	0	

履修上の留意事項	限定的作業分析を通じて、作業の治療的応用や教授法を検討する。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション	授業オリエンテーション、包括的作業分析から限定的作業分析へ
2	限定的作業分析（1）	COPM を使った作業分析と評価、ライフスタイル分析による限定的作業分析
3	限定的作業分析（1）	COPM を使った作業分析と評価、ライフスタイル分析による限定的作業分析
4	限定的作業分析（1）	COPM を使った作業分析と評価、ライフスタイル分析による限定的作業分析
5	限定的作業分析（1）	COPM を使った作業分析と評価、ライフスタイル分析による限定的作業分析
6	限定的作業分析（2）	合同レク参加場面による限定的作業分析
7	限定的作業分析（2）	合同レク参加場面による限定的作業分析
8	限定的作業分析（3）	AMPS を使った作業分析と評価・IADL 場面における限定的作業分析
9	限定的作業分析（3）	AMPS を使った作業分析と評価・IADL 場面における限定的作業分析
10	限定的作業分析（3）	AMPS を使った作業分析と評価・IADL 場面における限定的作業分析
11	限定的作業分析（3）	AMPS を使った作業分析と評価・IADL 場面における限定的作業分析
12	教授法の検討	未経験作業を試行する。クラスメートに分かりやすく指導する方法を検討する。（折り紙・マクラメ等）
13	教授法の検討	未経験作業を試行する。クラスメートに分かりやすく指導する方法を検討する。（折り紙・マクラメ等）
14	教授法の検討	未経験作業を試行する。クラスメートに分かりやすく指導する方法を検討する。（折り紙・マクラメ等）
15	教授法の検討	未経験作業を試行する。クラスメートに分かりやすく指導する方法を検討する。（折り紙・マクラメ等）
16	教授法の検討	未経験作業を試行する。クラスメートに分かりやすく指導する方法を検討する。（折り紙・マクラメ等）
17	限定的作業分析（4）	身体障害領域患者を想定しての木工（ミニラックづくり）
18	限定的作業分析（4）	身体障害領域患者を想定しての木工（ミニラックづくり）
19	限定的作業分析（4）	身体障害領域患者を想定しての木工（ミニラックづくり）

	20	限定的作業分析（4）	身体障害領域患者を想定しての木工（ミニラックづくり）
	21	限定的作業分析（4）	身体障害領域患者を想定しての木工（ミニラックづくり）
	22	限定的作業分析（4）	身体障害領域患者を想定しての木工（ミニラックづくり）
	23	限定的作業分析（4）	身体障害領域患者を想定しての木工（ミニラックづくり）
	24	まとめ	後期期末テスト

授業科目	基礎作業学実習Ⅲ	担当教員 実務経験	山田里見 有：■　　無：□	道内病院にて作業療法士として6年勤務
対象年次・学期	3年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	義肢装具学	担当教員	目黒　文彦		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	義肢装具の基本を学ぶ。義肢の理解を深める。主に上肢装具についての理解を深める				
到達目標	義肢装具を使用するうえで必要な上肢機能への解剖学・運動学的知識をもつ　ハンドセラピーの基本を理解する 上肢装具の種類とその適応を答えられる　義手の適応、義手各部の名称、チェックアウトについて答えられる				
テキスト・参考図書等	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 義肢装具学				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	定期試験
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	臨床・教育において活躍されている先生の講義も多く実施します。興味を持って受講してください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	義肢装具とは①	義肢装具概論（歴史、用途、作業療法における意味）
2	義肢装具とは②	義手・上肢装具を理解する上での基本事項（解剖学的・運動学的）
3	義肢装具とは③	義手・上肢装具を理解する上での基本事項（解剖学的・運動学的）
4	義手①	切断の種類、義手の構成・処方・適合について学ぶ
5	義手②	切断の種類、義手の構成・処方・適合について学ぶ
6	義手③	コントロールケーブルシステム、チェックアウトについて学ぶ
7	義手④	コントロールケーブルシステム、チェックアウトについて学ぶ
8	義手⑤	筋電義手について学ぶ
9	義手⑥	筋電義手について学ぶ
10	上肢装具①	上肢装具の分類・適応について
11	上肢装具②	上肢装具の分類・適応について
12	上肢装具とハンドセラピー①	上肢装具を必要とする疾患と障害、ハンドセラピーについて学ぶ
13	上肢装具とハンドセラピー②	上肢装具を必要とする疾患と障害、ハンドセラピーについて学ぶ
14	上肢装具とハンドセラピー③	上肢装具を必要とする疾患と障害、ハンドセラピーについて学ぶ
15	上肢装具とハンドセラピー④	上肢装具を必要とする疾患と障害、ハンドセラピーについて学ぶ

授業科目	義肢装具学	担当教員 実務経験	金子翔拓 有：■　　無：□	市内病院にて作業療法士として5年以上勤務
対象年次・学期	3年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	作業療法演習Ⅱ	担当教員	池田　保		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	15 時間
授業目的	評価実習に先立って、対象者評価から目標設定までの流れをペーパー上の症例を用いて体験する。評価項目チェックリスト作成、評価結果のまとめ、ICF 分類、目標設定とそこに至る思考過程を表出する練習を行う。				
到達目標	評価実習に向けて、身体障害分野、精神障害分野両分野における、情報収集の方法、評価結果のまとめ方、ICF 分類と作業療法目標設定が可能になる。				
テキスト・参考図書等	特に指定はしない				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	提出課題 90%、振り返り用紙課題 10%で評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	100	
	その他	0	

履修上の留意事項	症例情報の読み込みが必要である。学んだ知識や理解を総動員して対象者イメージを膨らませてほしい。また、毎回の課題提出が求められます。評価実習をイメージして各自しっかりと取り組むことを期待する。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション・精神障がい分野①	オリエンテーション、精神障がい領域の症例検討とグループ検討
	2	精神障がい分野②	精神障がい領域の症例検討とグループ検討
	3	精神障がい分野③	精神障がい領域の症例検討とグループ検討
	4	精神障がい分野④	精神障がい領域の症例検討とグループ検討
	5	身体障がい分野①	身体障がい領域の症例検討とグループ検討
	6	身体障がい分野②	身体障がい領域の症例検討とグループ検討
	7	身体障がい分野③	身体障がい領域の症例検討とグループ検討
	8	身体障がい分野④	身体障がい領域の症例検討とグループ検討

授業科目	作業療法演習Ⅱ	担当教員 実務経験	小熊真喜子 有：■　　無：□	道内病院にて作業療法士として勤務
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	作業療法演習Ⅲ	担当教員	池田　保		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必須	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	1、2 年で学習した評価技術の振り返りと臨床場面を想定した対応のしかたや工夫について検討し、実習前に習得、実習前実技試験につなげていくことを目的とする。				
到達目標	実習前試験に向けて、合格基準を超える水準まで評価手技に関する知識と理解、実践技術を高める.				
テキスト・参考図書等	作業療法技術ガイド、標準作業療法学　作業療法評価学、他、作業療法評価法で使用した教科書、資料等を利用する				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	成績評価には、実習前試験の得点が反映される
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	さまざまな疾患・障害に対して、柔軟な思考で作業療法の流れを学んでいきます。臨床実習に向けた学習力を養い、4 年生につなげていきます。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション、動作分析について	学習内容の目的や今後の流れについて理解する。また、立ち上がりの動作分析の仕方を学習する。
	2	評価技術（1）	身体障害領域での評価技術、ROM－T(1)
	3	評価技術（1）	身体障害領域での評価技術、ROM－T(2)
	4	評価技術（1）	身体障害領域での評価技術、MMT(1)
	5	評価技術（1）	身体障害領域での評価技術、MMT(2)
	6	評価技術（1）	身体障害領域での評価技術、反射検査（深部腱反射・病的反射）
	7	評価技術（1）	身体障害領域での評価技術、片麻痺機能検査
	8	評価技術（1）	身体障害領域での評価技術、感覚（痛覚・位置覚）
	9	評価技術（1）	身体障害領域での評価技術、起き上がり・移乗動作等の基本技術について
	10	評価技術（1）	身体障害領域での評価技術まとめ
	11	評価技術（2）	精神障害領域での評価技術　インテーク面接
	12	評価技術（2）	精神障害領域での評価技術　情報収集面接（１）
	13	評価技術（2）	精神障害領域での評価技術　情報収集面接（２）
	14	評価技術（2）	精神障害領域での評価技術　作業導入・作業教授
	15	評価技術（2）	精神障害領域での評価技術　まとめ

授業科目	作業療法演習Ⅲ	担当教員 実務経験	小熊真喜子 有：■　　無：□	道内病院にて作業療法士として勤務
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	作業療法管理学	担当教員	池田　保		
対象年次・学期	3 年・通年	必修・選択区分	必須	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	より質の高い作業療法を提供するため、保健、医療、福祉に関する制度への理解、マネジメント能力の向上、作業療法教育・倫理等について理解することを目的とする。				
到達目標	作業療法士が知っておくべき医療・福祉関連の制度や法規の範囲と内容を理解する。 作業療法士としてのマネジメントの重要性を理解し、診療報酬や施設基準の概略を知る。 リスクマネジメントの考え方を理解する。臨床現場における教育の重要性を理解する。				
テキスト・参考図書等	参考図書：作業療法管理学入門（医歯薬出版）				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	定期試験により評価する
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	臨床へ臨むにあたり、作業療法士は対象者との治療関係だけではなく、組織における役割も同時に果たす必要があります。関係法規とマネジメントに対する理解を深めることで、一層の資質向上を図りましょう。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション 法律について	オリエンテーション、法の階層、法とは
2	関係法規概論	OT の職業倫理、個人情報の保護
3	関係法規①	PT・OT 法、障害者差別解消法、医療法
4	公的扶助論	生活を支える所得の保証
5	社会保障制度	社会保障制度
6	関係法規②	精神保健福祉に関する法律の変遷、精神保健福祉法
7	関係法規③	医療観察法
8	関係領域	障害者総合支援法、感染症対策、バリアフリー法
9	作業療法倫理①	作業療法の職域と役割、作業療法管理マネジメント
10	作業療法倫理②	情報のマネジメントと医療安全のマネジメント
11	作業療法倫理③	作業療法業務のマネジメント①
12	作業療法倫理④	作業療法業務のマネジメント②
13	作業療法倫理⑤	作業療法業務のマネジメント③
14	作業療法倫理⑥	作業療法士の職業倫理
15	作業療法倫理⑦	作業療法士のキャリア教育

授業科目	作業療法管理学	担当教員 実務経験	目黒文彦 有：■　　無：□	道内病院にて作業療法士として14年勤務
対象年次・学期	3年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	作業療法技術論実習	担当教員	池田　保		
対象年次・学期	3 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	45 時間
授業目的	自助具作製、スプリント作製など作業療法実践に必要な基本的技術を習得すると共に、それらをどのように役立てるべきかを考えられるようになる。リハビリテーションの職種として必要な車いすに関する知識を習得する。				
到達目標	症状を想定してそれを補う自助具を作成できる　基本的なスプリント作成の技術を有する　褥瘡発生の機序を理解しシーティングの知識をもつ 車いす処方の基礎知識をもつ				
テキスト・参考図書等	写真でみる　基本スプリントの作り方				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	定期試験
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	製作体験を通して、対象者へのサービスの難しさ、楽しさなどを感じ取ってください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	自助具作製	自助具の意味や種類を知る。
2	自助具作製	自助具作製技術の基本を学び、グループにて脳卒中対象者の自助具を考案する。
3	自助具作製	自助具作製技術の基本を学び、グループにて脳卒中対象者の自助具を考案する。
4	自助具作製	考案した自助具を作製する。
5	自助具作製	考案した自助具を作製する。
6	自助具作製	作成した自助具の使用方をプレゼンテーションしたうえで、フィードバックをもらう
7	スプリント作製	スプリント作製方法の基礎を習得、材料、用具、適応の知識をもつ 手指リングスプリントの作製
8	スプリント作製	コックアップスプリントの作成
9	スプリント作製	コックアップスプリントの作成
10	スプリント作製	コックアップスプリントの作成
11	スプリント作製	上肢スプリントの意義を理解したうえで、代表的な上肢スプリントについての理解を深め、各自製作を通しスプリント製作の手順を学ぶ。
12	車いすシーティングと車いすクッションの作製	人が座るという意味、座位姿勢と身体機能の関係、作業療法士がシーティングに携わる意味
13	車いすシーティングと車いすクッションの作製	褥瘡が生じる機序とその予防策を理解する
14	車いすシーティングと車いすクッションの作製	車いす用クッションの種類と特徴を知る
15	車いすシーティングと車いすクッションの作製	ウレタンフォームを使った車いす用クッション作成の基本的手順を学ぶ。
16	車いすシーティングと車いすクッションの作製	ウレタンフォームを使った車いす用クッション作成の基本的手順を学ぶ。
17	車いすシーティングと車いすクッションの作製	ウレタンフォームを使った車いす用クッション作成の基本的手順を学ぶ。
18	車いすについて	車いすの採寸の仕方、申請手続きなどの車いすに関する一連の知識を深める。

	19	車いすについて	車いすの採寸の仕方、申請手続きなどの車いすに関する一連の知識を深める。
	20	車いすについて	車いすの採寸の仕方、申請手続きなどの車いすに関する一連の知識を深める。
	21	車いすについて	車いすの採寸の仕方、申請手続きなどの車いすに関する一連の知識を深める。
	22	車いすについて	車いすの採寸の仕方、申請手続きなどの車いすに関する一連の知識を深める。
	23	車いすについて	車いすの採寸の仕方、申請手続きなどの車いすに関する一連の知識を深める。

授業科目	作業療法技術論実習	担当教員 実務経験	梅田信吾 有：■　　無：□	道内福祉施設･社会福祉法人施設にて理学療法士として 30 年以上勤務
対象年次・学期	3 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	社会福祉学	担当教員	鈴木　道代		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	社会福祉とは何か、それを必要とする人々や生活とはどういう状況であるかを理解することが目的である。また、現在の社会福祉の理念、様々な社会福祉法制の仕組み、サービス体系についても学習する。以上を踏まえて、現代社会において社会福祉を必要とする人々への理解を深めてもらいたい。				
到達目標	①「社会福祉」という概念を理解できる。 ②生活との関連で社会福祉を必要とする対象者を理解できる。 ③様々な社会福祉法制・サービス体系を理解し、その概略を説明できる。 ④①～③の理解を通して生活における社会福祉の必要性を説明できるようになる。				
テキスト・参考図書等	プリント配布（各自ファイリングし、毎回持参すること）　なお、公欠以外のプリント再配布はしない 参考書：『社会福祉用語辞典』山縣文治ら編（2013）ミネルヴァ書房、『現代の社会福祉』鈴木幸雄編（2012）中央法規　など				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	90	定期試験、提出物点を合算して評価を行う
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	10	
その他	0	

履修上の留意事項：後半の授業では視聴覚機材を用いる。　また、学生に意見を求める場合、積極的な発言を求める。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション 社会福祉の意義①～社会福祉とは何かを考える	・授業の説明 ・社会福祉の定義
2	社会福祉の仕組みと生活①～生活概念を学ぶ	・生活概念について
3	社会福祉の仕組みと生活②～社会福祉の仕組みと対象者、法的枠組みを学ぶ	・社会福祉の対象を学生に確認する　・社会福祉の対象について説明する ・社会福祉法、社会福祉法制について説明する ・社会福祉の利用形態・給付形態を説明する
4	社会福祉の利用形態と援助方法①～社会福祉を担う専門職とソーシャルワークの視点について学ぶ	・社会福祉を担う専門職　・ソーシャルワークの視点 ・コミュニケーションの構成要素
5	社会福祉の利用形態と援助方法②～社会福祉で活用する援助方法を事例から学ぶ	・個別援助技術について説明　・バイスティックの 7 原則 ・関連援助技術
6	現代社会の変化～現代社会の人口動態や家族構成の変化を学ぶ	・年齢 3 区分　・少子社会・高齢社会の現状 ・家族形態の変化・家族観・機能
7	児童家庭福祉①～児童家庭福祉の概要と児童虐待防止法を学ぶ	・児童福祉の概念　・児童福祉法・児童憲章 ・児童虐待防止法　・児童養護施設（DVD 視聴）
8	児童家庭福祉②～ひとり親家庭への支援と特別養子縁組を学ぶ	・ひとり親家庭の実態と施策 ・特別養子縁組について（DVD 視聴）
9	障害者福祉①～障害概念とノーマライゼーションを学ぶ	・障害概念　・ノーマライゼーション （DVD 視聴）
10	障害者福祉②～障害者福祉の対象、就労、障害者差別解消法を学ぶ	・障害者福祉の対象　・障害者雇用促進法 ・障害者差別解消法　・DVD（発達障害）視聴
11	低所得者福祉①～貧困概念とその現状、貧困の連鎖について学ぶ	・絶対的水準論、相対的水準論 ・集団の連鎖（DVD 視聴）

	12	低所得者福祉②～生活保護の概要、実態、生活困窮者自立支援の概要を学ぶ	・生活困窮者自立支援（DVD 視聴） ・生活保護法
	13	高齢者福祉①～介護保険制度の概要を学ぶ	・介護保険制度
	14	高齢者福祉②～高齢者概念と老化、生きがいについて学ぶ	・高齢者の定義 ・老化と生きがい
	15	高齢者福祉③～認知症高齢者の現状を学ぶ	・高齢期の身体的特性と精神的特性 ・DVD 視聴

授業科目	社会福祉学	担当教員 実務経験	鈴木道代 有：□　　無：■	
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	職業関連活動	担当教員	藤田　修靖		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	障害者に対する職業リハビリテーションの全体像を把握するとともに作業療法士の役割について知る。				
到達目標	障害者の就労支援の具体的方法について理解する。作業療法士としての就労支援について理解する。				
テキスト・参考図書等	作業療法学全書　第 12 巻改定第 3 版　職業関連活動（協同医書）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	定期試験により評定する
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	就労支援関連施設についての知識を増やし、医療、保健、福祉場面との連携の基礎として欲しい。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション	授業概要について、国家試験過去問題解説
2	人と職業①	職業とは、職業の意義、人が職業に求めるもの（マズローの欲求階層説）、職業観と勤労観、産業について（第 1～3 次産業）
3	人と職業②	人の職業的発達（Super による職業生活段階）、職業関連活動とは
4	障害者の就労	職業リハビリテーションの定義、職リハの対象と其々の障害特性と職業的課題
5	職リハにおける OT の役割とジョブコーチ	評価技術的役割、対象者に対する役割、他の専門職に対する役割、ジョブコーチの役割
6	就労支援施設の概要	ハローワーク、障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、就労支援事業所、第 1 号職場適応援助者徐栄金受給資格認定法人
7	就労支援施設の実際	就労支援事業所における就労支援と OT
8	労働基準法	労働条件の明示、就業規則、労働時間、休憩・休日、有給休暇、
9	障害者雇用の促進	最低賃金、最低賃金除外制度、障害者雇用率制度、障害者雇用納付金制度、事業主への各種助成制度
10	職業関連活動における評価①	評価の流れ、能力の評価法
11	職業関連活動における評価②	厚生労働省編　一般職業適性検査（紙筆検査）
12	職業関連活動における評価③	厚生労働省編　一般職業適性検査（器具検査）
13	職業関連活動における評価④	職業レディネステスト、職業興味検査、内田クレペリン精神作業検査
14	職業関連活動における評価⑤	ワークサンプル法（タワー法、マイクロタワー法、箱作りテスト）
15	職業関連活動における評価⑥	標準時間設定法（PTS 法、MODAPTS 法、ワーカビリティテスト）
16		

授業科目	職業関連活動	担当教員 実務経験	藤田修靖 有：■　　無：□	道内精神科病院･就労支援施設において作業療法士として 17 年勤務
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	身体障害作業治療学実習Ⅰ	担当教員	青戸　恵利伽		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	45 時間
授業目的	身体障害領域の作業療法実践の基本的考え方を理解する。 主要な疾患・障害をもつ対象者の問題点に対応するプログラム立案の基礎力を身につける。				
到達目標	身体障害領域における代表的疾患に対する基本的な治療アプローチについて知り、基本的な治療プログラムを立案することができる。				
テキスト・参考図書等	図解作業療法技術ガイド 第 4 版 標準作業療法学　専門分野　身体機能作業療法学　第 4 版 動作分析　臨床活用講座				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	定期試験において、100 点満点中 60 点以上を合格とする。 本試験で 60 点未満の場合は、再試験によって 60 点以上を合格とする。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	この科目において、身体障がい作業療法の治療的関わりの基礎を学びます。講義と実習を交えて行います。評価実習では治療的関わりまでは行いませんが、妥当性のある目標設定のためには、基本的な治療的アプローチを理解している必要性があります。作業療法の守備範囲の広さも併せて理解ましょう。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	治療学概論	オリエンテーション及びアプローチ概論
2	脳血管障害に対するアプローチ	脳血管障害による片麻痺対象者に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
3	脳血管障害に対するアプローチ	脳血管障害による片麻痺対象者に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
4	脳血管障害に対するアプローチ	脳血管障害による片麻痺対象者に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
5	脳血管障害に対するアプローチ	脳血管障害による片麻痺対象者に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
6	脳血管障害に対するアプローチ	脳血管障害による片麻痺対象者に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
7	脳血管障害に対するアプローチ	脳血管障害による片麻痺対象者に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
8	運動器障害に対するアプローチ	筋骨格系・運動器の障害に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
9	運動器障害に対するアプローチ	筋骨格系・運動器の障害に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
10	運動器障害に対するアプローチ	筋骨格系・運動器の障害に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
11	運動器障害に対するアプローチ	筋骨格系・運動器の障害に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
12	運動器障害に対するアプローチ	筋骨格系・運動器の障害に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
13	運動器障害に対するアプローチ	筋骨格系・運動器の障害に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
14	神経難病に対するアプローチ	パーキンソン病をはじめとする、神経難病に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
15	神経難病に対するアプローチ	パーキンソン病をはじめとする、神経難病に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
16	失調症に対するアプローチ	失調症（主として小脳性失調）に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
17	失調症に対するアプローチ	失調症（主として小脳性失調）に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
18	活動制限に対するアプロー	日常生活活動・日常生活関連活動改善を目標にした作業療

		チ	法アプローチを学ぶ
	19	活動制限に対するアプローチ	日常生活活動・日常生活関連活動改善を目標にした作業療法アプローチを学ぶ
	20	活動制限に対するアプローチ	日常生活活動・日常生活関連活動改善を目標にした作業療法アプローチを学ぶ
	21	活動制限に対するアプローチ	日常生活活動・日常生活関連活動改善を目標にした作業療法アプローチを学ぶ
	22	参加制約に対するアプローチ	作業療法の重要領域である参加領域の問題点の捉え方と、そこに対するアプローチを学ぶ
	23	参加制約に対するアプローチ	作業療法の重要領域である参加領域の問題点の捉え方と、そこに対するアプローチを学ぶ

授業科目	身体障害作業治療学実習Ⅰ	担当教員 実務経験	山田里見 有：■　　無：□	道内病院にて作業療法士として6年勤務
対象年次・学期	3年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	身体障害作業治療学実習Ⅱ	担当教員	目黒　文彦		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	45 時間
授業目的	身体障害領域の作業療法実践について、身体障害作業治療学実習Ⅰの内容を理解したうえで、更に専門性の高い治療理論と実践を理解する。より幅広い対象者に適切かつ具体的なプログラム立案ができるようになる。総合臨床実習Ⅱ・Ⅲに向けて、適切なプログラム立案ができるようになる。				
到達目標	内部障害に対する作業療法を含め、幅広い身体障害領域に関する治療的視点と治療実践に関する知識を習得する。				
テキスト・参考図書等	人間作業モデル　第 5 版、図解作業療法技術ガイド 4 版、作業療法ゴールドマスターテキスト身体障害作業療法学				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	定期試験により評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	臨床で活躍されている先生方からの実践的な講義が多くあるので、積極的に聴く姿勢を大切に受講すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	人間作業モデル	人間作業モデルの基本構造、臨床場面での適用を理解する
	2	人間作業モデル	人間作業モデルに関連する評価・治療モデルを理解する
	3	脊髄損傷対象者への作業療法①～⑥	臨床現場における脊髄損傷者の治療、障害の実際について学ぶ
	4	脊髄損傷対象者への作業療法①～⑥	臨床現場における脊髄損傷者の治療、障害の実際について学ぶ
	5	脊髄損傷対象者への作業療法①～⑥	臨床現場における脊髄損傷者の治療、障害の実際について学ぶ
	6	脊髄損傷対象者への作業療法①～⑥	臨床現場における脊髄損傷者の治療、障害の実際について学ぶ
	7	脊髄損傷対象者への作業療法①～⑥	臨床現場における脊髄損傷者の治療、障害の実際について学ぶ
	8	脊髄損傷対象者への作業療法①～⑥	臨床現場における脊髄損傷者の治療、障害の実際について学ぶ
	9	呼吸リハビリテーションにおける作業療法	呼吸リハビリテーションの実際について学び、作業療法の役割を学ぶ
	10	呼吸リハビリテーションにおける作業療法	呼吸リハビリテーションの実際について学び、作業療法の役割を学ぶ
	11	呼吸リハビリテーションにおける作業療法	呼吸リハビリテーションの実際について学び、作業療法の役割を学ぶ
	12	呼吸リハビリテーションにおける作業療法	呼吸リハビリテーションの実際について学び、作業療法の役割を学ぶ
	13	癌のリハビリテーションにおける作業療法	緩和ケア、終末期リハビリテーションの実際について学び、作業療法の役割を学ぶ
	14	癌のリハビリテーションにおける作業療法	緩和ケア、終末期リハビリテーションの実際について学び、作業療法の役割を学ぶ
	15	内部障害の作業療法	内部障害（虚血性心疾患、糖尿病、腎障害）に対する理解を深め、作業療法の役割を学ぶ
	16	内部障害の作業療法	内部障害（虚血性心疾患、糖尿病、腎障害）に対する理解を深め、作業療法の役割を学ぶ
	17	内部障害の作業療法	内部障害（虚血性心疾患、糖尿病、腎障害）に対する理解を深め、作業療法の役割を学ぶ
	18	内部障害の作業療法	内部障害（虚血性心疾患、糖尿病、腎障害）に対する理解を深め、作業療法の役割を学ぶ

	19	脳卒中リハビリテーションにおける作業療法アプローチ	脳卒中対象者を想定し、作業療法治療目標に沿ったプログラム立案
	20	脳卒中リハビリテーションにおける作業療法アプローチ	脳卒中対象者を想定し、作業療法治療目標に沿ったプログラム立案
	21	脳卒中リハビリテーションにおける作業療法アプローチ	脳卒中対象者を想定し、作業療法治療目標に沿ったプログラム立案
	22	脳卒中リハビリテーションにおける作業療法アプローチ	脳卒中対象者を想定し、作業療法治療目標に沿ったプログラム立案
	23	身体障害作業療法の治療的アプローチについてのまとめ	身体障害の作業療法についてこれまでの内容を振り返り、改めて整理する
	24		
	25		

授業科目	身体障害作業治療学実習 II	担当教員 実務経験	山田里見 有：■　　無：□	道内病院にて作業療法士として6年勤務
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生活環境論	担当教員	青戸　恵利伽		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	①障害者・高齢者の生活を支援するための生活環境を包括的に捉えるための基本的知識について学ぶ。 ②住環境の評価と物的改善技術の知識関連について学ぶ。				
到達目標	障害者や高齢者を支援するための生活環境に関する知識を学び、説明出来るようになる。				
テキスト・参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	演習課題の提出
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	100	
	その他	0	

履修上の留意事項	高齢者や障害者の健康を予防維持していくためには医療だけではなく、衣食住や良好な環境を整えていく必要がある。健康をデザインすることを考えてください。 福祉住環境コーディネーターの資格取得を目標に、主体的に学んでください。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション・住環境整備論	住宅の役割、住環境整備概論、介護保険との関連
	2	住環境整備論②	住宅改修、福祉用具の概要
	3	住環境整備論③	住環境整備の進め方、OT の役割
	4	福祉機器の校外見学	社会福祉協議会　福祉用具展示ホールの見学
	5	福祉機器の校外見学	社会福祉協議会　福祉用具展示ホールの見学
	6	福祉車両の校外見学	TOYOTA「ハートフルプラザ」の見学
	7	福祉車両の校外見学	TOYOTA「ハートフルプラザ」の見学
	8	高齢者に対する住環境整備	高齢者の生活特性の理解と住環境整備
	9	障害者の生活特性と住環境整備	障害者（CVA・パーキンソン病・関節リウマチ）の生活特性と住環境整備
	10	障害者の生活特性と住環境整備	障害者（CVA・パーキンソン病・関節リウマチ）の生活特性と住環境整備
	11	環境整備の基本的考え方	建築面の基礎知識、住宅改修の計画・立案、図面の基礎知識、住宅改修の図案など
	12	環境整備の基本的考え方	建築面の基礎知識、住宅改修の計画・立案、図面の基礎知識、住宅改修の図案など
	13	環境整備の基本的考え方	建築面の基礎知識、住宅改修の計画・立案、図面の基礎知識、住宅改修の図案など
	14	環境整備の基本的考え方	建築面の基礎知識、住宅改修の計画・立案、図面の基礎知識、住宅改修の図案など
	15	住環境整備論まとめ	福祉住環境コーディネーター試験の問題を中心に住環境整備について振り返る

授業科目	生活環境論	担当教員 実務経験	浅賀忠義 有：■　　無：□	市内の病院で理学療法士として勤務し、大学教員としてリハ科学・福祉工学を研究・教育。
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	精神障害作業治療学実習	担当教員	小熊　真喜子		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	45 時間
授業目的	精神科作業療法に関連する、治療理論・関連療法を学ぶ。				
到達目標	①精神科作業療法で用いられる治療理論、関連療法を体験する。 ②治療援助の実際について整理し、活用していける基礎とする。 ③自己の特性に気づき、治療的自己の利用の基礎とする。				
テキスト・参考図書等	作業療法学ゴールドマスターテキスト精神障害作業療法学 精神障害と作業療法　第 3 版、わかりやすい交流分析、看護場面の再構成				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	90	前期定期試験 90% 授業内提出課題 10%
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	10	
その他	0	

履修上の留意事項	様々なアプローチ、視点について学ぶ。授業の内容は次々に変わるが、一つ一つ整理しながら学ぶことが大切である。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション・再構成（1）	授業のオリエンテーション　再構成の目的
2	再構成（2）	再構成を用いた振り返り体験
3	集団療法①	集団療法の種類　グループダイナミクスの定義と治療的意義
4	集団療法②	グループワーク体験と振り返り
5	交流分析	交流分析の概要　エゴグラム・構造分析
6	認知機能障害に対する評価と治療(1)	神経認知と社会認知　評価法と治療手技の紹介
7	認知機能障害に対する評価と治療(2)	認知機能障害に対する治療手技の体験
8	行動療法・認知行動療法（1）	行動療法とは？　認知行動療法の概要
9	認知行動療法（2）	認知行動療法論と基本訓練モデル・認知行動療法演習
10	認知行動療法（3）	生活技能訓練（ＳＳＴ）の概要・体験
11	WRAP（1）	WRAP の概要
12	WRAP（2）	WRAP の体験
13	心理教育	心理教育の概要と体験
14	マインドフルネス	マインドフルネスの概要と体験
15	やまいの語りを聴く（1）	NBM における傾聴のポイント
16	やまいの語りを聴く（2）	語り体験と振り返り
17	当事者研究（1）	当事者の人生体験の聴講
18	当事者研究（2）	当事者の人生体験の共有・グループ面接体験
19	ケアマネジメント	精神障害者ケアガイドライン
20	人としてとらえる視点（1）	精神障害における病気と障害
21	人としてとらえる視点（2）	生活上の困難・気持ち・願い

	22	人としてとらえる視点（3）	病院・地域での精神障がい者たち
	23	人としてとらえる視点（4）	精神科 OT の先輩より
	24		

授業科目	精神障害作業治療学実習	担当教員 実務経験	杉本千晴 有：■　　無：□	道内精神科病院、デイケアにて17年以上勤務
対象年次・学期	3年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	地域リハビリテーション実習	担当教員	池田　保		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必須	単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	45 時間
授業目的	訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設において実習を行い、地域での生活を支えるための作業療法の役割と具体的な取り組みへの理解を深める。				
到達目標	地域リハビリテーションにおける作業療法士の役割を理解する。				
テキスト・参考図書等	特に指定はないが、対象者の症状、状態、関わりの段階に合わせて 1～3 年次に使用してきた教科書や授業資料を活用する。				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	実習出席状況、実習日誌・サマリーシート、などの提出物および臨床教育者が作成する学生評価表、実習終了後の実習セミナーでの発表内容および参加状況により総合的に判定する。 ①臨床教育者が実習期間中に学生状況を評価した学生評価表の結果を 4 割と換算 ②実習後の学校でのセミナー等の成績を 6 割と換算 上記をあわせて 6 割以上の成績にて地域リハビリテーション実習の単位取得とする。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	100	

履修上の留意事項	最初の総合臨床実習終えた後の時期に位置付けられている実習です。この実習の目標である地域リハビリテーションについて、経験を通じて学んでください。地域に暮らす対象者との交流を通じて、生活について現実的な捉え方が出来るようになってください。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	実習前評価	直接患者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えているかについて試験等を通して確認する。
2	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
3	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
4	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
5	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
6	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
7	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
8	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
9	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
10	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
11	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
12	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
13	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
14	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
15	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
16	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
17	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。

	18	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
	19	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
	20	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
	21	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
	22	臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。
	23	実習後評価	多様化する保健・医療・福祉・介護等のニーズに対応するため、通所または訪問リハビリテーション場面における見学、体験を通して、作業療法士の役割を知る。さらに地域包括ケアシステムの強化に資するための知見を得るとともに利用者ニーズを把握し、作業療法の役割を確認する。

授業科目	地域リハビリテーション実習	担当教員 実務経験	山田里見 有：■　　無：□	道内病院にて作業療法士として6年勤務
対象年次・学期	3年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	地域作業療法学Ⅰ	担当教員	和田　英峰		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必須	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	15 時間
授業目的	「地域」や「社会」についての基本的な理解を深める。地域作業療法実施における必要な制度を理解する。社会保障制度外の作業療法対象についても理解を深め、臨床実習Ⅲに臨む。				
到達目標	地域作業療法に関する介護保険制度や地域包括ケアシステム、生活行為向上マネジメントに関する知識を有するようになる。				
テキスト・参考図書等	PT・OT ビジュアルテキスト　地域リハビリテーション学 第 2 版 事例で学ぶ　生活行為向上マネジメント　第 2 版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	定期試験
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	地域、社会の中で医療従事者である作業療法士はどのような働きができるでしょうか。講義形式で進める中で発問の機会を設け、クラス内の共有を増やします。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション	地域とは何か、地域が人にもたらす影響を理解する。地域における作業療法士の役割を理解する。
2	介護保険制度の概論	介護保険制度について理解する。介護保険制度をどのように利用しているかを理解する。
3	地域包括ケアシステムの概論①	地域包括ケアシステムについて理解する。医療保険や介護保険だけではなく、このシステムが構築されることにより、地域住民が、どのように生活を送ることが出来るのかを理解する。
4	地域包括ケアシステムの概論②	地域包括ケアシステムについて理解する。医療保険や介護保険だけではなく、このシステムが構築されることにより、地域住民が、どのように生活を送ることが出来るのかを理解する。
5	生活行為向上マネジメントの概論①	生活行為向上マネジメントの概要を理解し、作業療法士として治療プログラム立案までの思考過程を学ぶ。また、生活行為向上マネジメントが地域で活用される視点について理解を深める。
6	生活行為向上マネージメントの概論②	生活行為向上マネジメントの概要を理解し、作業療法士として治療プログラム立案までの思考過程を学ぶ。また、生活行為向上マネジメントが地域で活用される視点について理解を深める。
7	多職種連携①	地域に生活する人々の悩みを知る。多職種で連携することの必要性とその中で作業療法士がどのよう役割を持つのかを考える。
8	多職種連携②	地域に生活する人々の悩みを知る。多職種で連携することの必要性とその中で作業療法士がどのよう役割を持つのかを考える。

授業科目	地域作業療法学Ⅰ	担当教員 実務経験	和田英峰 有：■　　無：□	道内病院にて作業療法士として8年勤務
対象年次・学期	3年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	発達障害作業治療学実習	担当教員	青戸　恵利伽		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	45 時間
授業目的	発達障害領域の治療法について学び、理解を深める。				
到達目標	・発達障害分野における治療アプローチを列挙できる。 ・発達障害領域の作業療法の考え方と実践事例を説明できる。				
テキスト・参考図書等	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野 発達過程作業療法学第 3 版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	85	定期試験は前期に行う。 期末テスト点は 85 点満点とし、グループ課題・個人課題での提出物による基礎点 15 点とする。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	15	
その他	0	

履修上の留意事項	実習・グループ学習では、積極的に授業に参加すること。外部講師の授業はなるべく欠席しないこと。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション・発達障害分野 OT のアプローチ（1）	授業オリエンテーション・発達 OT で用いられる治療手技ファシリテーションテクニック
2	発達障害分野の OT アプローチ（2）	発達 OT で用いられる治療手技（人間作業モデル・摂食嚥下）・環境調整
3	発達障害分野の OT アプローチ（3）	発達障がい児・者に対する OT についての論文検索と抄録作成・発表準備
4	発達障害分野の OT アプローチ（4）	発達障がい児・者に対する OT についての論文検索と抄録作成・発表準備
5	発達障害分野の OT アプローチ（5）	文献抄録を使った発表体験・質疑応答
6	発達障害分野の OT アプローチ（6）	文献抄録を使った発表体験・質疑応答
7	発達障害で用いられる福祉用具・自助具・遊具（1）	福祉用具・自助具・遊具の実際　子どもが使う用具を選ぶ際のポイント 発達を支える・促す遊具作成～遊具体験・作成計画
8	発達障害で用いられる福祉用具・自助具・遊具（2）	福祉用具・自助具・遊具の実際　子どもが使う用具を選ぶ際のポイント 発達を支える・促す遊具作成～遊具体験・作成計画
9	発達障害で用いられる福祉用具・自助具・遊具（3）	発達を支える・促す遊具作成～作成計画・材料選定・購入・作成
10	発達障害で用いられる福祉用具・自助具・遊具（4）	発達を支える・促す遊具作成～材料選定・購入・作成
11	発達障害で用いられる福祉用具・自助具・遊具（5）	発達を支える・促す遊具作成～作成
12	発達障害で用いられる福祉用具・自助具・遊具（6）	発達を支える・促す遊具作成～作成用具の発表・体験会
13	発達障害で用いられる福祉用具・自助具・遊具（7）	発達を支える・促す遊具作成～作成遊具の発表・体験会
14	作業療法の実際（1）	重症心身障害児・者に対する作業療法の実際
15	作業療法の実際（2）	発達障がい児に対する地域リハビリテーション
16	作業療法の実際（3）	筋ジストロフィー児・者に対する作業療法の実際
17	作業療法の実際（4）	筋ジストロフィー児・者に対する作業療法の実際

	18	感覚統合療法（1）	感覚統合理論の概要 感覚統合療法の実際（ビデオ鑑賞と解説）
	19	感覚統合療法（2）	感覚統合理論の概要 感覚統合療法の実際（ビデオ鑑賞と解説）
	20	感覚統合療法（3）	感覚統合遊具体験・分析
	21	感覚統合療法（4）	感覚統合遊具体験・分析
	22	摂食・嚥下・言語障害児に対するリハビリテーション（1）	摂食・嚥下・言語障害のある子どもに対する言語聴覚士の役割
	23	摂食・嚥下・言語障害児に対するリハビリテーション（2）	脳性麻痺児の摂食・嚥下・言語障害

授業科目	発達障害作業治療学実習	担当教員 実務経験	佐々木勇輝 有：■　　無：□	道内児童福祉施設にて 6 年勤務
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	薬理学	担当教員	竹本　功		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	15 時間
授業目的	患者の QOL 改善には職能間での情報交換が必要であり、特に医薬品の関与が欠かせず、その基本的な知識により幅広い情報提供ができること。				
到達目標	1）医療人として、医薬品の重要性を理解すること。 2）チーム医療の一員として、主な医薬品の主作用と副作用、取扱い、薬物療法の習得をすること。				
テキスト・参考図書等	わかりやすい　薬理学　第 3 版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	定期試験において、100 点満点中 60 点以上が合格とする。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	2 コマ単位で授業を進行する。講義終了 5〜10 分前に復習を行う。特に、総論・末梢神経作用薬・中枢神経作用薬・抗炎症薬・ホルモン系作用薬・抗感染症薬を中心に講義をする。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	総論（1）	薬理学の概念、主作用と副作用、薬物動態と薬効
2	総論（2）	小児・妊婦・高齢者の薬物治療、医薬品の規制と保管・管理
3	末梢神経作用薬、中枢神経作用薬①	自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬、全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬、鎮静睡眠薬
4	中枢神経作用薬②、循環器系作用薬①	向精神薬、抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬、降圧薬、心臓作用薬、腎臓作用薬
5	循環器系作用薬②、抗炎症薬	血液造血器系作用薬、非ステロイド性消炎鎮痛薬、その他
6	呼吸器系作用薬、消化器系作用薬	気管支喘息治療薬、鎮咳薬、胃炎・抗消化性潰瘍薬、催吐薬・制吐薬、催下薬
7	ホルモン系作用薬、抗感染症薬	糖尿病治療薬、骨粗鬆症治療薬、抗菌薬
8	消毒薬・抗がん剤、補習	種類と使用方法・抗がん剤、プリント・スライド

授業科目	薬理学	担当教員 実務経験	竹本功 有：■　　無：□	薬学博士。道内医科大学病院等にて薬剤師として40年以上の勤務経験を有する
対象年次・学期	3年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	倫理学	担当教員	尾形　敬次		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	近年では健康保険制度の改革が問題になり、特にその一般的な政策である構造改革の理解にまで立ち入る必要があった。この種の問題は医療システムと直接的な関係と緊急性があるので、相応の時間を取って理解を深めてもらう。そこで最新の社会現象について、随時考察を試みてもらう。この考察の結果を授業にフィードバックさせる。これは状況の変化に対応させるため、前もってシラバスの中で予告することはできない。以上のように、学生の習熟度と社会状況の関係の中で講義を進めるので、時間ごとの講義内容をシラバスであらかじめ指示することはできず、下はあくまで目安となる講義計画である。知識として習得すべき内容はほぼ以下の通りであり、講義はおおむねこの順序に沿って進められるが、テーマによっては数時間かけて議論する。				
到達目標	この講義は医療者としての態度を形成することが目標である。したがって、倫理学的議論の知識を持つべきことは無論のこと、それを通して何よりもまず、医療者としての社会的、道徳的立場を確立することが目標となる。認識すべき重要なことは、他人の生命、健康を左右するため、医療者としての責任は、他の職種よりも大きいことである。つまり、一般の大人以上の高い道徳性が医療者には求められる。従って、他の講義とは異なり、ここでは知識の習得ばかりでなく、道徳的態度の確立が優先課題となる。一方、医療を巡る社会状況はめまぐるしく変化する場合がある。その変化の中でも医療者としての自分の立場を確立することがこの授業の目標である。				
テキスト・参考図書等	特に指定しない				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	50	授業時間に提起する課題と期末試験の総合
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	50	
	その他	0	

履修上の留意事項	ノートを取ること 講義の中では講義ばかりでなく、その態度の確立に関与する問いを立て、随時考察してもらう。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	民主主義社会	民主主義社会の主旨、制度の認識
	2	民主主義社会	民主主義社会の主旨、制度の認識
	3	福祉社会	社会福祉の理念と実際を知ること
	4	生命倫理学	1. 医療を巡る社会背景、2. 医療を巡る第二次大戦後の変化、3. Cure から Care へ、4. 患者の自己決定権とインフォームド・コンセント、5. 脳死臓器移植と生命倫理学的問題、6. 再生的クローンと治療的クローン、7. 尊厳死と安楽死、8. 生命と人間の尊厳
	5	生命倫理学	1. 医療を巡る社会背景、2. 医療を巡る第二次大戦後の変化、3. Cure から Care へ、4. 患者の自己決定権とインフォームド・コンセント、5. 脳死臓器移植と生命倫理学的問題、6. 再生的クローンと治療的クローン、7. 尊厳死と安楽死、8. 生命と人間の尊厳
	6	生命倫理学	1. 医療を巡る社会背景、2. 医療を巡る第二次大戦後の変化、3. Cure から Care へ、4. 患者の自己決定権とインフォームド・コンセント、5. 脳死臓器移植と生命倫理学的問題、6. 再生的クローンと治療的クローン、7. 尊厳死と安楽死、8. 生命と人間の尊厳
	7	生命倫理学	1. 医療を巡る社会背景、2. 医療を巡る第二次大戦後の変化、3. Cure から Care へ、4. 患者の自己決定権とインフォームド・コンセント、5. 脳死臓器移植と生命倫理学的問題、6. 再生的クローンと治療的クローン、7. 尊厳死と安楽死、8. 生命と人間の尊厳
	8	生命倫理学	1. 医療を巡る社会背景、2. 医療を巡る第二次大戦後の変化、3. Cure から Care へ、4. 患者の自己決定権とインフォームド・コンセント、5. 脳死臓器移植と生命倫理学的問題、6. 再生的クローンと治療的クローン、7. 尊厳死と

			安楽死、8．生命と人間の尊厳
	9	生命倫理学	1．医療を巡る社会背景、2．医療を巡る第二次大戦後の変化、3．Cure から Care へ、4．患者の自己決定権とインフォームド・コンセント、5．脳死臓器移植と生命倫理学的問題、6．再生的クローンと治療的クローン、7．尊厳死と安楽死、8．生命と人間の尊厳
	10	生命倫理学	1．医療を巡る社会背景、2．医療を巡る第二次大戦後の変化、3．Cure から Care へ、4．患者の自己決定権とインフォームド・コンセント、5．脳死臓器移植と生命倫理学的問題、6．再生的クローンと治療的クローン、7．尊厳死と安楽死、8．生命と人間の尊厳
	11	生命倫理学	1．医療を巡る社会背景、2．医療を巡る第二次大戦後の変化、3．Cure から Care へ、4．患者の自己決定権とインフォームド・コンセント、5．脳死臓器移植と生命倫理学的問題、6．再生的クローンと治療的クローン、7．尊厳死と安楽死、8．生命と人間の尊厳
	12	生命倫理学	1．医療を巡る社会背景、2．医療を巡る第二次大戦後の変化、3．Cure から Care へ、4．患者の自己決定権とインフォームド・コンセント、5．脳死臓器移植と生命倫理学的問題、6．再生的クローンと治療的クローン、7．尊厳死と安楽死、8．生命と人間の尊厳
	13	生命倫理学	1．医療を巡る社会背景、2．医療を巡る第二次大戦後の変化、3．Cure から Care へ、4．患者の自己決定権とインフォームド・コンセント、5．脳死臓器移植と生命倫理学的問題、6．再生的クローンと治療的クローン、7．尊厳死と安楽死、8．生命と人間の尊厳
	14	生命倫理学	1．医療を巡る社会背景、2．医療を巡る第二次大戦後の変化、3．Cure から Care へ、4．患者の自己決定権とインフォームド・コンセント、5．脳死臓器移植と生命倫理学的問題、6．再生的クローンと治療的クローン、7．尊厳死と安楽死、8．生命と人間の尊厳
	15	生命倫理学	1．医療を巡る社会背景、2．医療を巡る第二次大戦後の変化、3．Cure から Care へ、4．患者の自己決定権とインフォームド・コンセント、5．脳死臓器移植と生命倫理学的問題、6．再生的クローンと治療的クローン、7．尊厳死と安楽死、8．生命と人間の尊厳

授業科目	倫理学	担当教員 実務経験	尾形敬次 有：□　　無：■	市内専門学校、大学にて哲学・生命倫理学等の教育に30年以上に渡り従事
対象年次・学期	3年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床実習Ⅱ	担当教員	池田　保		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	203 回	時間数	405 時間
授業目的	本学で修得した知識・技術、および臨床評価実習にて学んだことを、臨床実習指導者の指導の下で応用・活用する。症例を通じて、初期評価から治療・再評価・治療プログラムの再検討までの流れを体験し、学習する				
到達目標	対象者との適切な関係を築くことができる、対象者の状態に合わせた情報収集、評価、全体像の把握、作業療法目標設定ができる。 実習指導者の指導の下、治療プログラム立案とその実施を行う経験を積む。				
テキスト・参考図書等	特に指定はないが、対象者の症状、状態、関わりの段階に合わせて 1～3 年次に使用してきた教科書や授業資料を活用する。				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	臨床実習指導者の評価と作業療法学科教員の評価を合わせて総合的に評価する。 （実習施設での学生評価 40%、学校での学生評価 60%） 評価項目（実習施設） 1.評価準備　2.評価実施　3.評価の解釈　4.記録と報告　5.治療計画　6.作業療法実施 7.職業人としての資質・適性　8.管理運営 評価項目（学校） 1.受講態度　2.症例報告　3.課題提出
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	100	

履修上の留意事項	施設のルールを守り、学生らしく積極的に実習に取り組んで下さい。学校の授業では学べない多くの事を経験し身に付ける機会としてください。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	実習前評価	実習前筆記・実技試験にて、直接患者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。
	2	【第 2-202 回】 臨床実習	臨床実習施設において、臨床実習指導者の指導の下、実習を行う。本学で習得した知識・技術、およびこれまでの臨床実習において学んだことを総合して応用・活用し、症例を通じて初期評価から治療・再評価・治療プログラムの再検討までの流れを体験する学習の機会。、・適切な情報収集と評価を実施する。、・得られたデータを整理し、総合的に分析して問題点を把握し、治療目標を樹立する。、・治療目標に沿った作業療法プログラムを作成し実施する。治療、訓練に対する再評価を実施し、問題点、治療目標、治療プログラムの再検討を実施し、それに伴って治療目標を樹立する。
	3	【第 203 回】 実習後評価	実習における教育成果の判定にはサマリー発表の内容や提出物について確認し、実習指導者評価と教員評価とを合わせて総合的に判定する。

授業科目	臨床実習Ⅱ	担当教員 実務経験	小熊真喜子 有：■　　無：□	道内病院にて作業療法士として勤務
対象年次・学期	3 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		